DEC. 24 1996
宮城県壮年テニス連盟
会　報　第22号

ごあいさつ

委員長　山本　忠

今までクラブ代表委員と運営委員による委員総会によって決定されていた連盟の活動方針は、本年度の連盟規約改訂により総会（本年度は１２月７日）において決定されることになりました。ぜひ皆様総会に出席して、連盟発展のために忌憚のないご意見を賜りたいと願っております。また、その後の懇親会で、アルコールの効いた辛めのご意見を委員の誰かにぶつけて戴ければ、これも必ず反映されることになります。

委員の任期は１年で、特別の事情が無い限り、重任しても３年で退任しますので、年末の総会において次の委員を補充します。こちらから皆様にお願いをして委員になって戴いておりますが、本当は自分から委員を希望して、壮年テニスのために役立ちたいと思っていらっしゃる方の自主参加を願っております。是非お申し出ください。

最後になりましたが、私を含め数人の委員が今期をもって退任いたします。会員の皆様、運営委員、幹事各位のお陰をもちまして何とか務めさせていただきました。こんごも連盟の発展を心から願って、各種大会や総会に出ようと思っております。大変有難うございました。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

平成８年度宮城県壮年テニス連盟総会報告

副委員長 中村　克宏

連盟規約の改訂により平成８年度から総会が委員総会に代り最終決議機関となった。今回は第１回の開催で１２月７日、勾当台会館で行われた。出席人員４０名を上回り会の成立に何ら問題はなかった。

中村副委員長が進行係で山本委員長の挨拶で始まった。規約改訂について、総会を最終決議機関としたこと、２名の会計監事をおいて来年から会計監査を行う事について触れられたがこれらを含め、規約改訂に関しては２年間にわたる委員長の多大な努力が結実をみたもので、今年度限りで委員長を辞されることと併せ、その労に深謝を捧げたいと存じます。

次に、平成８年度行事報告を川口委員より資料－１、同決算案について有賀委員より資料－２、平成９年度役員について山本委員長から説明、　山本忠委員長、有賀吟生、川口温弘、松山真水、日野佑子、和田美代子の各委員が辞任、新委員は資料－３、平成９年度行事案を川口委員から資料－４、平成９年度予算案を有賀委員から資料－５によりそれぞれ説明があり、いずれの案も承認された。

以上でつつがなく総会を終了しましたが、この会は会員が直接意見を述べ合う唯一の集まりですので、次回からはもっと多数のご参加と活発なご意見の出ることを期待したいとおもいます。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

目次

		pp
†ごあいさつ	委員長 山本　忠	1
†平成８年度総会報告	副委員長 中村 克弘	1
†東北ﾏｽﾀｰｽﾞﾃﾆｽ交流大会報告	菅野志津子	2
†ねんりんﾋﾟｯｸ'96宮崎大会報告	山内　宏	2
†老いらくの優勝	岩月 賢一	3
†北京国際ﾍﾞﾃﾗﾝﾃﾆｽ大会に参加して	川口 温弘	3
†ｼﾆｱよ　輝け！	奥井紀美子	5
†日本ｼﾆｱﾃﾆｽ全国大会に参加して	中村 克弘	5
†対女子連定期戦に参加して	水谷 政雄	6
†いわきとの親善試合を終えて	川口 温弘	7
†平成８年度決算書		7
†平成９年度予算書		8
†近頃一寸気になる話題　二つ		8
†室内ﾀﾞﾌﾞﾙｽを楽しむ会開催のご案内		8

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

△ △東北マスターズテニス交流大会'９６
"東北6県一巡、完全制覇達成"△ △

宮城県女子監督　菅野志津子

平成３年に第一回東北シルバーテニス交流大会として宮城県が主幹で開催されましたこの大会も今年で第六回を迎えて、名称も東北マスターズテニス交流大会と新たにされました。それと、今年より女子５０歳以上ダブルス戦も組み入れられ試合の層の厚さを感じさせられました。

開催地は当番県の福島県福島市営森合テニスコート（オムニコート１４面、クレーコート４面）で行われました。開会式が９月５日の午前９時ということで、宮城県選手、応援部隊を含めた総勢２７名の大半が前日の４日に出発いたしました。各自車に乗り合わせて午後３時頃会場のコートに到着しましたが、そのころには、もうすでに熱の入った練習をしている他県の選手達が一杯でコート使用も時間待ちの状態でした。

宮城県の選手も不慣れなクレーコートで３，４０分の練習後、ポツポツと落ちてきた雨を機にその夜の宿泊地である土湯温泉に向かい、気持ち良いお風呂と美味しい食事をいただいて明日の大会のために身体をやすめました。その夜は女子選手にとって昨年までの「宮城県五連覇」の文字がプレッシャーとなって脳裏をかすめ続けたことでしょう。

５日、６日の試合両日は快晴にめぐまれました。開会式での大会会長挨拶に始まり、全日程を無事終了することが出来ました。表彰式のおり、宮城県に団体優勝のカップが授与されました時、「来年からカップはズーッと宮城県に置いたままでいいよ。・・・返還の必要なし！」とジョークも飛び出しました。６連覇達成の意義あるカップを選手の皆様のご好意で私が受領させて頂きましたことを心から感謝いたしております。有難うございました。「来年は宮城県で」というお話もありましたが、それはこれからの各県の幹事さんが集まっての会議の結果ということになりそうです。

来年のこの大会には当連盟の方々が沢山参加され、テニス交流の機会を持たれることを念じております。

選手の皆様お疲れ様でした。男子監督の本間満雄様にはいろいろなお世話をしていただき大変ご苦労様でした。

県別団体得点表を記して報告といたします。

	女子50才	55才	60才	男子60才	65才	70才	合計	順位
青森	3	9	7	21	9	13	62	4位
岩手	14	6	15	5	13	7	60	5
秋田	18	10	9	9	13	23	82	3
山形	13	11	7	7	3	13	54	6
宮城	13	23	21	21	22	19	119	1
福島	17	19	19	15	18	3	91	2

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

・・ねんりんピック'９６宮崎テニス交流大会・・

仙台市監督 山内　宏

第９回全国健康福祉祭みやざき大会（１１月９日～１２日）は、「太陽の国．ひらく長寿の夢ページ」のテーマのもとで九州の宮崎県で開催され、テニス交流大会は宮崎市の新しい観光地、シーガイヤテニスクラブ（照明付オムニコート１６面、ウレタンチップタイプの室内コート４面を有す）で開催された。

この大会で、仙台市チーム（構成メンバー；６５歳男子：千葉、平井組、６０歳女子：北畠、平井組、６０歳男子：落合、山内組）は、１０日の予選リーグで、熊本県、大阪府、香川県と対戦し、０勝３敗となり、１１日の決勝トーナメント（雨天のため室内コートでタイブレーク戦を行う）第４位グループにのぞみ、１回戦で新潟県に２－１で勝ち、２回戦で福岡県に０－２で負け、敢闘賞を授賞しました。

仙台地方との気温差が１０度もあって、第１日は温暖で、素晴らしい環境の中で気分良く新しい仲間達とテニスを楽しみ、第２日目は雨天でしたが、屋内コートで新しい仲間との交流を重ねて、本大会の趣旨を十分はたして良い思い出を作りました。また少しは観光（オーシャンドーム、堀切峠、サボテン園、青島、亜熱帯植物園）もして、４泊５日のテニス交流大会を満喫しました。

ゲストとして、沢松奈生子、山本育史両プロが参加した開始式では、特別賞ー夫婦賞ーとして、仙台市チームの平井夫妻が表彰（賞状、記念品の贈呈）されました。

追記：来年度第１０回大会は、山形県酒田市で開催される予定です。山形県を始め、他県の多くの方々から、何故宮城県のみがこの大会に欠場しているのかと問われ、返答に困った。

★★ 老いらくの優勝 ★★

岩月 賢一

このところ試合に出ても、「出れば負け」ばかりが続いていたので、オリンピックではないが、スポーツは参加することに意義があるのだと、やせ我慢と知りつつ、自分に言い聞かせていました。

テニスは下手の横好きで、私はこれまでいろいろな試合に顔を出してきましたが、毎年行われる全日本医師テニス大会もその一つです。今年ははるばる熊本まで出かけ、１０月１２～１３日の両日、阿蘇山麓での第２３回全日本医師テニス大会の７５歳以上の種目に参加しました。参加者は女医さんも交えて２００名を越え、なかなかの盛会でした。

１日目のダブルスはA，Bの２組に分れて、それぞれ３チームづつのリーグ戦でしたが、私はBクラスで２戦２敗の惨敗でした。２日目のシングルスは４人のトーナメントで１回戦は、６：０，２回戦は６：３で勝ち、試合は２回だけでしたが、これでBクラスの優勝ということになりました。年寄りに無理にならないように、主催者の方で試合数に配慮したのでしょう。ともあれ、傘寿を越えた私にとっては、「老いらくの恋」ならぬ「老いらくの優勝」でした。このところ私は、シングルスは体力的に無理と諦めていましたが、やってみると、負ければ無念さが骨身にしみる半面、勝てばもっぱら自分の実力のせいと自惚れておられるので、ダブルスとは違った面白さがあるようです。

ところが、つきが回ってきたのか、それから数日後の１０月１９日、平成８年度の宮城県壮年テニス連盟の混合ダブルスでも、幸いDクラスで優勝することができました。熊本大会のダブルスでは、年に一度のパートナーのせいもあって、お互いに呼吸が合わず、ダブルスは二人でやるシングルスではなく、パートナーとのコンビネーションの大切なことを痛感しました。混合ダブルスのほうは４戦４勝でしたが、率直に言って、私が勝ったと言うよりは、私には過ぎたパートナーのお陰で、勝たせてもらったと言うほうが当たっているでしょう。パートナーの大切なことは夫婦だけではないとしみじみ思いました。しかし、パートナーもうまくいけばベターハーフ(better half)ですが、ときにはかえってビターハーフ(bitter half)となる可能性のあることも忘れてはならないでしょう。

二度あることは三度あるというので、あわよくばと、私は三度目の優勝を期待しているのですが、そうは問屋がおろさないでしょう。しかし、米国のサミュエルウルマンが「青春」と題する詩の中で、「齢を重ねただけでは人は老いない。理想を捨てるが故に人は老い朽ちて行く」と言っているように、心に夢をもつことは、老いに立ち向かい、老いに耐える生き方の一つではないでしょうか。

本年８月に厚生省の発表した平成７年度の簡易生命表によると、大正２年生まれの私は、日本人男性の平均寿命の７６．３６歳をとっくに越えました。しかし、これから先何年生きられるかどうかを示す平均余命は、まだ６年ほどあるようですので、これからも日々存命の喜びをかみしめ、ほどほどにテニスを楽しみたいと思っています。

生きて仰ぐ　空の青さや　鰯雲

(平成8年10月24日記)

※※※

＊第10回中国北京市国際ベテランテニス大会に参加して＊

川口 温弘

１０月１８日～２１日の間北京市農壇体育センターで第10回中国北京市国際ベテランテニス大会が行われました。この大会は、北京市テニス協会、北京市シニアスポーツ協会、北京市国際スポーツセンターが主催し、参加１０ケ国から２４０名の選手が参加しました。

大会種目は、男子ダブルス（A’８０歳以上、A７０～７９歳、B６５～６９歳，C６０～６４歳，D５０～５９歳，E４０～４９歳）　女子ダブルス（A６０歳以上，B５０～５９歳，C４０～４９歳，D３５～３９歳）　混合ダブルス１０５歳以上の３種目で行われました。

当宮城県壮年テニス連盟からは、男子ダブルスのA組に久保寿一・室賀創組、伊藤一利・小野泰祐組、C組に菅野義治・小早川（岡山市）組、本間満雄・西川（埼玉県八潮市）組、村上実・川口温弘組の８名が、女子ダブルスB組に酒井倭子・菊池（山形市）組、本間和子・菅野志津子組の３名が出場しそれぞれ大健闘大熱戦を展開しましたが、女子ダブルスのB組で酒井・菊地組が第４位に入賞、男子ダブルスのC組コンソレで本間・西川組が優勝の成果でした。

日本からは６７名（四国、関西、関東、東北から）の多くが参加しましたが、国際テニス連盟の公認大会で参加国のレベル水準が高く、日本からの参加者では、女子ダブルスAで１位、２位、男子ダブルスA’で１位、２位、３位の他は、中国、台湾、香港、韓国が上位入賞を占める状況でした。試合は、厳しいものがあ

りましたが、とても楽しく和気あいあいと行いその雰囲気は、とても国際色豊かなものでした。表彰式・さよならパーティを北京飯店で各国選手全員参加して行われました。会場は、豪華中国的で、格式高い表彰式、受賞者に心から大きな拍手を送る様はとても感動的でした。

中国観光

八達嶺万里の長城

春秋戦国時代、外敵の侵入を防ぐための国境線上に城壁を築き、以後、歴代の王朝が修築、増築を重ね現在に至り、東は河北省の山海関から西は甘粛省まで、延々６３５０kmに及ぶもので、八達嶺は、明代に築かれた石とレンガで造られた頑固なもので高さは、平均7．８m幅は６mほどあり堅固な様がよく残る観光の名所を目の当りにしてそのスケールの大きさ眺望のすばらしさは、唯々感嘆するばかりでした。幼いころよく口にした「万里の長城に小便すれば、ゴビの砂漠に虹がたつよ」を思い出すほど。

故宮、奥林匹克飯店（オリンピックホテル）を後に市内を走る、自転車で勤めに行く人と歩行者の多いこと広い道路も狭く感じるほどでした。交差点では、右折するバスの直前を二人乗りの自転車が何恐れることもなくスーと通り抜けアッ危ないという場面もしばしば、近代建築の立ち並ぶところ、古い建物、密集した複雑な建物商店街を横に眺めつつ故宮につく。故宮の南に位置する午門（紫禁城最大の門）を通り紫禁城と呼ばれる建物群全体が歴史的観賞物だという博物館故宮を見学。とてつもなく広い所に大きい建造物が多くあり太和殿、中和殿、保和殿の珍しい彫刻などカメラにおさめて急ぎ北の城門神武門を出る。景山（伝説では石炭を積み上げ築いたという人工の山）を一望しバスに乗る。赤い色が多く使われており中国だなぁという印象が深い。

敦煌観光

８時４０分敦煌山荘（ホテル）を出発シルクロード、ゴビ砂漠のオアシスの街敦煌の郊外の莫高窟（鳴沙山の東麓、大泉河の侵食によりできた断崖にあるもので、世界に類のない仏教美術宝庫、南北１６００mに600の窟が開かれそのうちの１０００mの地区にある窟で塑像の数２４００～２５００、壁画面積は4万５００㎡に及ぶ）をけんがく、日本語の達者なガイドさんの案内説明は極めて明解で聞く度に感銘を深くするばかりでした。市内から４，５km離れた鳴沙山へ、東西４０km、南北２０kmの細かい砂でできた砂山で、ちなみに、細かい砂が風に吹かれて表面を流れ落ちるときの音が、まるで山が泣いているように聞こえることからその名がつけられたとか、また山の麓には、三日月型の泉、月牙湖がありこの２０００年来いまだかって一度も枯れたことがないという美しい泉、砂山、ラクダ、泉のほとりの建造物、白ぽぷら並木の景観は「月の砂漠」の雰囲気、誠に絶景かな、絶景かな、でした。

一方澄み切った青空、夜空に輝く星がこんなにきれいな所があるのかと驚きでした。

西安観光

３０００年からの歴史をもつ、世界屈指の古い国際都市西安、シルクロードの起点の地でもあり心待ち期待した所でもある。西安の西の門、安定門に上り遠くシルクロード方向を見渡しなるほどと、その昔を偲び感無量。また独学で日本語を修得したという４０代の男性ガイドの親切明解な案内・説明に唯々感心しつつ市内を一巡しホテルに帰る。

翌日北京市から４０kmの華清池へ、玄宗皇帝が楊貴妃をつれて一日中酒盛や、歌舞音曲といった遊楽にふけって我が世の春を謳歌したところ、３０００年の昔から湯元で玄宗皇帝専用の浴槽、楊貴妃入浴の浴槽、楊貴妃が育てたザクロの木庭園等見事でした。次いで「西安でこれを見なければ、中国に行ったことにならない」ともいわれる、秦の始皇帝兵馬俑２０００年前の秦の強大な軍陣の様子を伝えるものでこの兵馬俑は中空の陶製、１９７４年に偶然発見されたもので、今世紀を代表する古代遺跡。すごい、素晴らしいの一言に尽きる。

半ば遺跡博物館

約６０００年前の新石器時代の集落遺跡で一万㎡の遺跡が発掘され、その三分の一がドーム内に展示されていた規模の大きさ、出土品の質量、保存の完璧さなど全く驚くばかり。

青龍寺

空海（弘法大師）がここ青龍寺にきて恵果に師事したのは３０歳代の元気盛り。恵果に認められ密教の奥義を伝授されたところ、西安市・中国仏教協会と日本の四国４県真言宗門徒が共同で建立した空海記念碑があり心静かに拝観。

頤和園

ここは中国で最大規模の皇室庭園で総面積２９０万㎡その４分の３を水面が占めている。権力の幻影を見るものをことごとく虜にした魅惑の場所でもあるとか。また庭の中に屋根付の長い廊下があり混明湖に沿って

７５０ｍ余り延びていて約８０００以上の絵画が描かれており花鳥風月や歴史、古典の名場面ギャラリーである。なるほどこれが中国庭園かと強い印象を受けました。

この度のテニス大会と観光の旅に参加し多くの方々と友情を深めることができ、また色々とお世話になりましたこと心から感謝申し上げます。

※※

➧ シニアよ 輝け！ ➧

奥井　紀美子

第７回日本シニアテニス全国大会（９月２７日～２９日、佐賀市）前半の部に仙台から５人が参加しました。１日目、受付で再会を喜びあって皆さん賑やか。簡単な開会式があって試合開始。年齢別に赤いリボンを付けている方達は、私達（パートナーの庄司勝子さんと私）の仲間の７０歳以上。みんな日焼けして強そうに見える。でも試合の合間にコートの外を歩く姿のなかには、膝をかばいながら歩く人、背中を丸くしている人、腰に手を当てながら歩く人を見かけ「ハハー、やっぱり同じ」と意を強くするが、コートにたつとシャンと様変わりするから不思議である。シニアの皆さんは逞ましい。２日目は決勝が行われ、７０歳以上の部での優勝チームは姉妹ペアで、７２歳のお姉さんは後ろでロブ専門、それが正確に左右のコーナーに粘り強く続く。７１歳の妹さんは前で気長に待って、機をみてボレー、スマッシュで決める。長い試合は見ていても疲れましたが、その試合振りはまことに見事なチームワークで、さすが姉妹と感心しました。

私達のメンバーは、戦時中２０歳前後、花の青春はおろか、夫々が厳しい時代を過ごしましたが、５０余年後の今、テニスを楽しむことの出来るのも平和あってこそとその有難さをしみじみ思いました。

この大会のもう一つの楽しみは観光。今回も、「訪ねたことのない佐賀なら是非に」と参加した次第で、大会前日には吉野ヶ里遺跡を訪ねて、弥生時代の人々の生活振りを垣間見て感動し、その後地図を片手に佐賀市内を散策、大会終了後は旅行社の用意したツァーで唐津、名護屋城跡、呼子（ここでの昼食は、イカの活づくり、足はまだピクピク動いていました）。
平戸の海上ホテルに一泊、翌日は船で九十九島コバルトラインを楽しみ、ハウステンボスへ。こうして九州北西部日本海側を駆け足で旅してきました。大会に参加して、勝負はともかく、同年輩のテニス好きのお友達の輪が広がることも大きな収穫です。来春は能登と聞いてますが、「又行こうね」と楽しみにしています。

（参加者は、久保氏、大和田さん、武田さん、庄司さんと私奥井、黒一点の久保様には大変お世話になりました。）

※※

★ 第６回日本シニアテニス全国大会に参加して ★

中村　克宏

東北支部長を伊藤一利氏がなされている日本テニスシニア連盟という団体があって女子５０歳以上、男子６０歳以上の全国大会を行っていることはご承知の方も多いと思います。これは個人の寄付金を基盤にした私的な団体でありますが、そのため制約がなく、予選は行わず申込順で参加を認めているようです。参加賞、入賞に金券を用意しているのもユニークです。
第６回全国大会が本年（平成８年５月８日～１０日）天童の山形県総合運動公園テニスコートで行われました。私は今回は二回目の参加でしたが、一回目の参加のときも忘れられない思い出があります。鳥取市で平井正光さんとペアーで６５歳以上のクラスに出ました。この時は５チーム一組で四組それぞれリーグ戦を行い、我々を含めた４チームが４戦全勝でした。しかし、我々の順位は3位。１位の組は４戦して失ったゲーム数が1ゲーム、２位は２ゲーム、我々は３ゲームだったのです。１位の賞金は２万円、３位は３千円、２ゲームの値段が１万７千円だったことになります。この時はミックスもあり、斎藤久仁子さんと組んで、こちらも予選リーグを勝ち進み、セミファイナルでゲームカウント５－５，ノーアドバンテイジ１ポイント取られて３位に、本当になってしまった！という感じ。この組が決勝で６－２で優勝してしまったので、惜しかったなぁ、１ポイント１万７千円ですからね。でも額は少なくてもテニスの試合で賞金をもらったのはこれが最初の経験でした。プロになった気分ですね。

二回目になる本年の天童の大会では神松伊三郎さんと組んで６５歳以上に出ました。大会当日は雨にたたられ、大会運営に当たられた伊藤一利さん、久保寿一さん、本間満雄さん、酒井倭子さんたちのご苦労は大

変でした。我々の試合のほうは雨のため室内コートで行われ、7チーム一組の中で4回戦う変則リーグ戦形式で予選を行い、これが四組の1位のチーム4チームで決勝トーナメントとなります。予選リーグは雨のため1試合20分で打ち切り、時間内何ゲームやってもかまわない、ノーアドバンテージルール、用意始め、時間です、でおしまい。我々のグループにたまたまいわきの岡本、塩坂組がはいっていたのですが同じ東北同志のため直接対決がなかったのです。我々が3試合目に入る前に試合結果の表を見たところ、我々といわき組が全勝でしかもいわき組はすでに3試合目6－0前の2試合も1ゲームも落としてはいないのです。これに対して我々は1試合目に1ゲームを落としていました。我々が残りの2試合を1ゲームも落とさず勝っもいわき組が6－0で勝てば我々よりもゲーム負け数が少なくなり決勝進出はいわき組となります。ところが、ところが、残り5分の時点でいわき組は1ゲーム落としてしまったのです。スコアは6－1で問題はないと思っていたと後で話を聞きました。いわき組が先に全試合を消化して失ったゲーム数は1でしたので我々は1ゲームも落とせません。30－0，0－30で2回リードされたときは足が震えました。5分前になっ時は、神松さんに「もうゲーム取られないように時間稼ぎしよう」というような状態で時計ばかり見ていました。時間との戦いというのがテニスにもあったのです。結局我々の方に9－0というスコアがあったのが幸いして、取得ゲーム数が多く1位になりました。神松さんの1，2球で決めてしまう早いペースが雨のため採用された特別ルールに幸いしたのでした。決勝トーナメントは6ゲーム先取で行われ、今度は優勝することが出来ました。我々は前の大会の経験で1ゲーム、1ポイントの大切さがわかっていましたが、いわき組は全勝で2位になるわけはないと思っいたと後で話していました。

いわきの岡本さんは私より1年先輩にあたりますが、私とは因縁浅からずの間柄で、どういう訳か岡本さんが割を食っていることが多いのです。一例をあげると、前年天童で行われた東北シルバーの試合で、私は本間満雄さんと組んで岡本組と対戦し2－5でリードされていました。この時、俄雨が激しく降り出し、レフリーが試合中止、ジャンケンで勝敗を決めると宣言しました。それで結局は我々の勝ち、1位の賞品いただきということになりました。怒っている顔が目に見えるようでしょう。雨の降らない時には三、四回負けていますから、よっぽど雨と相性の悪い人です。

テニスの試合で時間とか雨が結果を左右する、何が起こるか、神様はいろいろやって下さいますね。

※※※

★ 対女子連定期戦に参加して ★

水谷　政雄

菊薫る11月4日、いつもの休日よりも少し早く起きると快晴。今日こそは若いご婦人達とテニスをして心地好い汗を流し、昨年に引き続き勝利の美酒を飲みたいものと泉総合グランドに向かった。

女子連代表の挨拶で、「今年は昨年の雪辱を期し、予選会でメンバーを選抜した。日頃の練習成果を十二分に発揮して頑張りたい」との颯爽とした決意表明がおこなわれた。またパートナー同志のウエァも決まっておりはつらつとした雰囲気が感ぜられた。

一方、壮年側は昨年勝ったせいか良くいえば余裕のある感じだが、悪くいえばどうしても勝つぞという覇気が感じられなかった。私ども電力グループ2組4人は平均年齢60歳、全員Eクラスに出場したが、すっかり女子連に圧倒されてしまった。対戦成績は1勝5敗と惨憺たるもので、全体の敗戦－女子連の勝利に大きく貢献してしまった。その懲罰としてか、あれから1ヶ月もたってから山本委員長より、対女子連戦に参加しての感想～反省を寄稿してほしい旨の要請があり断り切れず拙文を書かかざるを得なくなった次第。

とはいっても試合の結果が前記のような惨状だったので、コソッと帰宅し記録は破棄してしまったので、今や対戦相手のお名前とか、各試合毎の状況を報告することも出来ないので全体の印象を記するに止たい。

女子連の皆さんは若くてしなやかな足腰、日焼けした顔で声を掛け合っての連係プレー、チームワークの良さ、アグレッシブなサーブとストローク、サーブアンドダッシュしての平行陣等日頃の練習の成果が充分表われていました。とくにサーブアンドボレーが効果的で、ロブで逃げようとしてもアウトをしたり、小さくてスマッシュで決められたりで、頼みの舌戦も聞いて貰えず処置なしという所でした。

日頃きちんと練習もせず、仲間内だけでアフターテニスを楽しむための遊び方しかしていなかったことを反省させられました。年のせいか、とくにフットワークが悪くなりパートナーの頑張りに応えられなかったことが残念です。

今年の冬はキチンとスクールに通って練習に励み、来年は対外試合も経験させてもらい、捲土重来、今年の汚名をはらしたいと考えている。

追記：勝敗は別として楽しそうにプレーをしていた方に原稿を依頼したものです。来年も美人との対戦を楽しみにしたい方の参加を望みます。　委員長

※※

★　いわきとの親善試合を終えて　★

川口　温弘

６月の運営委員会で今年は本間満雄さんと私が担当し山形県を加えて山形県総合運動公園テニスコートで行うとして、いろいろ調整検討しましたがコートの確保が困難なために７月に入り急拠対いわきとの親善試合を宮城県内で行うことになりました。
コート、宿泊、交通の便等条件のよいところはないものかと仙台近郊、遠刈田温泉を当たりましたが仙台近郊にはなく結局遠刈田温泉周辺で行うことになり本間さんと２人で現地に赴きコート、宿について実地に見て回りコートは蔵王町Ｂ＆Ｇ海洋センター、宿泊は前々年宿泊の大忠旅館という案で運営委員会に報告実行することになりました。
細部を計画し今度は、菅野志津子さんと坂爪ミヤさんに同行をお願いし再度現地での調整確認を、特に宿泊料、夕食献立、部屋割り、テニスコート、昼食の弁当の献立、現地での買い物と仕入れ先等詳細にわたり行いました。
いよいよ9月２８日（土）いわきの方々が到着「遠いところお疲れ様でした」挨拶を交わす間も無く練習に入り一汗を流しました、あの強風の中で。１６時過ぎには、旅館に入り温泉につかり懇親会、明日の試合に備えて英気を養いました。懇親会は飲むほどに盛り上がり楽しく歌や踊りで大賑わい、ここで早くもいわきに一本取られた状況でした。明けて２９日朝から素晴らしいテニス日和、参加者はいわき側２２名当連盟側３８名の合計６０名で９時公式親善試合開始。当連盟の方々がそれぞれ大健闘熱戦を展開しましたが当連盟の４勝１４敗の残念な結果に終わりました。公式戦を終えミックスダブルスを和やかに楽しく行い１５時頃一切の行事を終了しました。
楽しかったよ、また来年会おうね・・・ありがとう、さようなら・・・とお別れしました。
皆さんのご協力ご支援により成功裡に終了できましたこと感謝もうしあげます、ありがとうございました。
後日、いわきＶＴＣの百沢厚子副会長よりとても楽しく、皆さんの暖かい心くばりに感謝申し上げます、皆様にくれぐれもよろしくとの便りを戴きましたので申し添えておきます。

▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽

△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△

✻✻近頃一寸気になる話題 二つ✻✻

「ねーチョット、今年、宮崎県であったねんりんピックね、県単位では宮城県だけが出場しなかったんだって。貴女知ってた？仙台市の選手がご当地で他県の選手から『どうして宮城県は参加しないの？テニスする人は沢山おいでになるじゃない？』って質問責めにあったんだって」「私もまえから気になってたんだけど、なんでも、仙台市に住んでいる人は、宮城県選手になれないし、過去に二回選手になった人もダメだって。」「そんな規則誰が決めたの。仙台以外でテニスをしているお年寄りあまりいないんじゃないの。折角参加出来るチャンスがあるのに。お役所の方々、宮城県のテニス人口の様子知らないで勝手に決めてるみたい。仙台市民だって宮城県人じゃないの。私県民税払ってるわよ。参加したい人いっぱい居るのに。」「わたし、オンブズマンに話をしてみようかしら。」

「話変わるけど貴女知ってる？ 後何年かで宮城県で国体やるんだって。」「知ってるわよ。七北田のテニスコートの近くに大きな建物作ってるでしょ。あれ、国体用のサッカー場ってはなしよ。」「宮城県てお金持ちね。あんなすごい設備作っちゃうなんて。それにしては県営のテニスコートって貧弱ね。この前天童市に行ったら驚いたわよ。県営のテニスコート、オムニで２０面くらいあったわ。それに室内コートが４面。もうビックリ。それも照明付き。」「宮城県も利府の方に県営のテニスコートを造る計画があるってきいたわょ。でも、ちょっと気になるのわたし。なんでもハードコートなんだって。話に聞くと、世界規模の大会を開きたいんだって。大きなスタンド付きのメインコートもあるってことよ。」「宮城県でデビスカップの決勝やるつもりじゃない？。」「冗談じゃないわ。わたし達、天童のようなテニスコートが欲しいのよね。オムニって疲れないし、それにボールも長持ちするし。いっそのこと、計画変えてもらって、照明付きの人口芝室内テニスコート２０面なんてどぉ？ 日本で最初の県営室内テニスセンター。今、県民が一番欲しがっているのはこういうテニスコートじゃない？ 寒い冬だってテニス出来るし、折角家事に精出して、ヨシ！明日はテニスと思ってたら雨だったりして。ガッカリよ。協会の人だっていろいろな大会開くの便利じゃぁない？マジな話、私たち主婦もそうだけど、働いている人達、仕事のあとでテニス出来たら素敵じゃない？

宮城県の人達ってこうことあまり文句言わないんじゃない？ 他所の公営コート、ほとんど照明あるわ。造ってくれたら知事さん見直してしまうわよ。もう一期お願い！ってことになるわよ。キット。」「これもオンブズマンに相談したら？」「新聞の声欄に投書して、皆で署名運動しようかしら。それとも知事さんに直接手紙書こうかしら。マジよ。わたし。」

□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

✻室内ダブルスを楽しむ会のご案内✻

恒例の「室内ダブルスを楽しむ会」を下記の要項にて開催いたします。運営委員会の予定では１月と２月に一回づつ開催のつもりでおりましたが、会場のキリンＳＣの都合で１月の土日祭日はコートが借りられませんでした。皆さんの希望があれば３月にもう一回開催する予定です。

期日 時間：２月１日（土） ９：３０～１７：３０
会　　場：キリンＳＣ 広丁室内コート
会　　費：２５００円／人
申　　込：ハガキに氏名を明記し（複数名でも可）事務局あてに申し込んで下さい。テニスを満喫して頂くため、人数を３６名に限定させていただきます。申込順とします。会報が届き次第受付を開始しますので申し込んで下さい。参加出来ない場合はその旨連絡を差し上げます。参加出来る場合にはお便りを差し上げません。都合で不参加の場合には早めに事務局までお知らせ下さい。キャンセル待ちの方々がおいでになります。

編集後記：今号は長編の力作を沢山投稿いただきまして編集子としてはうれしい悲鳴をあげました。平成８年度大会記録、年間行事、新入・退会、年会費等は次号です。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※
※編集発行：宮城県壮年テニス連盟運営委員会※
※事　務　局：　　　　　　　　　　　　　　　　※
※　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　※
※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※